

編集後記 道しるべ

2026年のノーベル賞が発表されました。日本からは、化学賞に東京理科大学の碓合憲三名誉教授が選ばれました。

1949（昭和24）年、湯川秀樹博士が日本人初のノーベル賞を受賞して以来31人目となります。
（米国籍取得者を含む）

日本人にとってノーベル賞がまだ遠い存在だった1922（大正11）年、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の著作を通じて美しい日本に憧れた一人の物理学者が、妻とともに日本へ向かっていました。その船上に電報で届いたのは、ノーベル物理学賞受賞の知らせ。その人こそ、「20世紀最大の物理学者」とも称される**アルベルト・アインシュタイン**です。11月17日に神戸へ到着すると、ノーベル賞の祝賀ムードも相まって、各地で熱狂的な歓迎を受けたといわれています。43日間の滞在中、日本の文化や精神性に触れ、さまざまな逸話を残しています。

その一つとして伝わるのが、仏教者・近角常観師との対談です。「**仏さまとは、どのような方ですか**」と尋ねるアインシュタインに、近角師は「姥捨て山」の伝説を語ったといわれています。貧しい村の掟に従い、息子が年老いた母を山奥へ捨てに行く物語。息子に背負われた母は、道中の枝を次々に折っていきます。自分を捨てた帰り道、**息子が山で迷わないよう「道しるべ」となる目印を残していた**のです。この話は「**奥山に枝折るしおりは誰がためぞ、親を捨てんと急ぐ子のため**」という歌になって今に残っています。そこにあったのは、自分を捨てようとする者さえ救おうとする**無条件の慈悲**。それが仏さまの姿だと聞き、アインシュタインは深く感じ入ったと伝えられています。僕は仏教に詳しいわけではありませんが、こどもを思う親の心は、古今東西、変わらない真理だと思います。

さて、2026年12月25日、「**こども性暴力防止法**」が施行されます。学校や認可保育所などには、日常的な安全確保の取り組みに加え、こどもと接する業務に就く人について一定の性犯罪歴を確認することなどが義務づけられます。英国のDBS制度を参考にしたことから、「**日本版DBS**」とも呼ばれています。また、学習塾や認可外保育事業なども、同等の措置を講じて国の認定を受けることができます。認定を受けた事業者は、こども家庭庁のウェブサイトで公表されるほか、「**こまもろうマーク**」という、いわば**目印**を施設の案内等に表示できるので、こどもの安全を願う保護者にとって安心材料の一つになるでしょう。一方、性犯罪歴の照会是人権の問題と深く関わります。この仕組みがさらに他の業種に広がっていくのではないかと、漠然とした不安も拭えません。また、情報流出が相次ぐ昨今、極めて機微な情報を事業者が適切に管理できるのかという懸念もあります。

こどもの安全を守る制度が、新たな不安や人権侵害を生んではなりません。だからこそ、対象事業者には厳格な情報管理が求められ、定めたルールが適切に運用されているか、継続的に点検・見直することが欠かせません。安全と人権の双方を守ってこそ、制度への信頼が生まれます。アインシュタインの言葉に、「**大切なのは、問い続けることだ**」とあります。制度をつくって終わりではなく、運用を点検し問い直し続ける姿勢が大事だと思うのです。そこに成長があるはずだし、その先に未来があるのではないのでしょうか。僕ら大人がつくる制度や社会の仕組みが、未来を担うこどもたちにとって、あの「折られた枝」のような**「道しるべ」**になることを願ってやみません。

ところで、空気が乾燥するこれからは、「のど飴」が気になる季節です。僕がよく食べる「のど飴」をつくっているのは、ノーベル製菓という名前の会社。創業者は湯川博士と親交があった縁から、そんな社名にしたそうです。僕にはまったく縁のないはずのノーベル賞。でも、そんな身近な「のど飴」を通じて、とーっても細い糸でつながっているのかなと思うと、なんだかちょっぴりロマンを感じます。「アホカー」と思われるかもしれませんが、いいじゃないですか。ノーベル製菓の企業理念は「夢とロマン」だそうですから。**(^_-)-☆**これから、まわりにノーベルの飴を上げるときは、「はい、ノーベル賞！」って言おうかな。

アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



日本人は
素晴らしい!

